



創立139年
鳳祭

写真特集

11/1 ~ 4



ホームカミングデー

書の魅力語る

仲川名誉教授が講演



芸術としての書を、制作と学術の両面で探究する仲川恭司名誉教授がホームカミングデーのトップで講演、本学での研究・

教育活動や書の魅力を語った。

書魅刀を語った。教授は、文学部教授・岡・学生の指導と研究。2016年に定年退職後は、毎日書道展で最高賞の文部科学大臣賞、また個展の開催で毎日芸術賞を受賞した。毎日書道会理事、独立書人団理事長の要職を担うほか国連教育科学文化機関（ユネスコ）の無形文化遺産に日本の書道文化を初めの登録を推進する協議会委員を務めるなど、書の普及にも尽力している。

世界に通じる書を広め、本学の文学部教授も務めた

せるとほめてくれるが『なんと読むの?』と聞かれる。もっと字数が少なく、分りやすい作品が書けなかったら」と振り返った。師が推進した「少字数書をより新しい世界へ再構築しようとする意欲が語った。教員になって間もなく、生田キャンパス旧弓館に、初めて本格的な書道室が設けられた。「他大学の書道室などを参考にして日本一のものを作りた」と思った。完成した書道室は生田緑地に近く、自然豊かな中で存分に授業を行い、筆を執った。東日本大震災の影響により、9号館に移ったが学生たちには常に良い環境で書に取り組んでほしいと願っていた。専攻の書道室は今でも夢に出てくるほど身近なものだと笑顔で語った。

最後に好きな言葉として「人生は未体験への挑戦」を披露して講演を終えた。

⑥面に関連記事）

(9面に関連記事)

多彩なイベントで校友を歓迎



武田教授×長野智子さん
「報道とは伝える側の信念」



文学部ジャーナリズム学科開設記念対談

月11日の米同時多発テロ直後、パレスチナから伝えたとときに、報道とは伝える側の信念だと強く感じた」と原点を語った。

また、長野さ

文学部シニア・教授で文学科開設を記念して、特任教授に就任する長野智子さんと文学部の武田徹教授の対談が行われた「写真」。

長野さんはフジテレビアナウンサーからアメリカ留学を経て、現在は「サンデーステーション」（テレビ朝日）のメインキャスターを務める。バラエティー時代や取材現場でのエピソード、調査報道への思いを明瞭な語り口で披露。（2001年9

「日本も世界も、黒か白かという、対立の議論ばかりになっているが、本当に大事なことは、もっと複雑で判断が難しいのではないか」として、こうした点で議論を深めていくような授業に取り組みたい」とジャーナリズム学科特任教授就任の抱負を語った。